婦人解放の悲劇

エンマ・ゴルドマン

伊藤野枝訳
青空文庫

人類の間に存する種々なる集団の根本的差異を論ずるあらゆる政治及び経済上の学説、階級と種族の差異、女権と男権とを画する全ての人工的境界線などいふ様々なものが在るにもかゝはらず、この様な色々な差異が次第に成長して何時か完全な一つのものとなるの日が来るといふ確信を私が抱いてゐる者であるといふことを予め含んで置いて頂きたい。

と云つて私はなにも平和条約を提供しやうといふのではない。今日に於ける社会生活の全般を通じて幾多の矛盾せる利害関係の勢力から生じて来る社会的闘争は正しき経済上の原理を基礎とした社会的生活改造の実現と同時に微塵に粉砕せらるゝであらう。

両性及び個人間の平和もしくは調和といふことは必ずしも人類の浅薄なる平等といふ事に基するものではない。或は又個性及び個人の特長を没却するといふことでもない。最近の将来が解決しなければならない今日当面の問題は、如何すれば人は自分自身であると同時に他の人々と一つになり、全人類と深く感ずると共に各自の個性を維持してゆけるかといふことである。これが群集と個人と、真の民主々義者と個人主義者と、或は男と女との如何を問はず悉く何等の反抗衝突なしに握手し得る根底土台であると私には思はれる。私どもの座右銘は「おたがひに許しあへ。」と云ふのではなく、寧ろ「おたがひに理解せよ。」と云ふのでなければならない。よく引照せられるスタエル夫人の「全てを理解するといふことは全てを許すことである。」といふ文句に対して私はこれまで特に感心したと思つたことは一度もない。その文句にはなん

となく懺悔室の臭ひがついてゐる。自分の同胞を許すといふ言葉は傲慢なパリサイ人でも云ひさうな文句である。同胞を理解すると云へばそれで沢山だ。婦人解放とその全性に及ぼす影響に対する私の見解の根本的方面がこれによつて略々読者に推察せらるる事と思ふ。

解放は女子をして最も真なる意味に於て人たらしめなければならない、肯定と活動とを切に欲求する女性中のあらゆるものがその完全な発想を得なければならない。全ての人工的障碍が打破せられなければならない。偉なる自由に向ふ大道に数世紀の間横たはつてゐる服従と奴隷の足跡が払拭せられなければならない。

これが婦人解放運動そも〳〵の目的であつた。然るにその運動の齎らした結果はと云ふと反つて女子を孤立せしめ、女性にエツセンシヤルである幸福の泉を彼女から奪つてしまつたのである。単なる外形的解放は近代の婦人を人工的の者と化し去つた。それは恰かもかの仏蘭西の植木家の手になるピラミツド形、車輪形或は花環形の奇異なる草木を徒らに連想せしむるのみで、女子内部本性の発想によつて達せらるる何等の形をも現はしてはゐないのである。かくの如く人工的に成長せる女性植物の大多数が特に現社会の所謂智識階級中に発見せらるるのである。

女子のための自由と平等！　この言葉が初めてかの高潔勇敢なる人々によつて発言せられた時、どの様な希望と向上心を女性の間に呼び醒したであらう。太陽はあらゆる光輝と栄光をもつて新世界に昇臨せんとした。この世界に於て女子は自己の運命を指導すべく自由ならんとし

た――其目的は確かに偏見と無智の世界に対し全てのものを賭して戦つた男女先駆者の偉大なる熱誠と、勇気と忍耐と不断の努力とに価したのである。

私の希望も又元よりその目的に向つて進んでゐるのである。しかしながら今日実際解釈せられ、適用せられてゐる婦人の解放はその偉大なる目的に達することを誤つたと私は主張したい。今や、真に自由ならんことを切望する婦人はかの解放より再び自己を解放せざるべからざる必然に面してゐるのである。これは如何にもパラドキシカルに聞えるかも知れない、しかも、それは唯だあまりに真である。

女子は解放を通じて如何なることを成し遂げ得たか？　結果は僅かに数洲に於ける選挙権の獲得となつて現はれたに過ぎない。（これは米国の場合に就て云つてゐるのです――訳者）それは果して多くの善意を抱ける代表者が予言した如くわが国の政界を純化し得たであらうか？

確かにそうではない。従つて今や健全明晰なる判断を有する人々はかの学校の寄宿舎に於けるが如き口吻をもつて政界の腐敗を論ずることを当然止めなければならない。政治の腐敗は種々なる政治上の人物の徳不徳と何等の交渉もないのである。その原因は全く物質的のものなのである。「奪ふ者は与ふる者よりも幸福なり。」「安く買つて高く売れ。」「汚れたる一つの手は他の汚れたる手を洗ふ。」――政治とは畢竟かくの如き座右銘を有する実業界の反映に過ぎないのである。所謂選挙権を有する婦人と雖もかゝる政治界を純清ならしむる希望は殆んど絶無なのである。

解放は又男子と平等なる経済的独立を女子に与へた。即ち女子は各自の好む職業に従事することが出来るやうになつた。然しながら女子の過去並に現在の体力修練が男子に拮抗すべき必然力を充分具備して置かなかつたが為に、女子は屡々男子と同等なる市価を得んがためには全神経を緊張させ、全精力を消耗し尽さなければならない。結果は女子の不成効に終つてゐる。女教師、女医者、女弁護士、女建築家、女技師等は男子の競争者の如き信用と報酬とを得てはゐない。而して偶々その憧憬せる平等に達することを得るにしても一般に身体と精神の健全を犠牲としてゐるのである。かの大多数の婦人労働者の如き、家庭の狭隘と自由の欠乏とが只だ工場、デパアトメントストア、事務所等に移されたるのみとすれば果してどれ程真の独立を得て居るであらうか。のみならず、終日の激しい労働の後、「ホーム、スヰートホーム」を求むる多数の婦人の上に冷やかにして気持悪く、不秩序にして快からざる家庭の重荷が背負はされるのである。光栄ある独立よ？　数百の少女が帳場、ミシン機械或はタイプライタアの後にかくれたる「独立」に痛み疲れて結婚の最初の申込をよろこんで承諾するは少しも怪しむにたらぬことである。彼等は親権の軛を脱せんと欲する中流の少女の如く結婚を待ち望んでゐる。単に衣食の道を得せしむる所謂独立とはそのために凡てを犠牲にすることを婦人に期待する程理想的なものでもなく、又欽慕すべきものでもない。私等のあまりに高く賞めすぎる独立とは畢竟婦人の天性、愛の本能、及び母の本能等を鈍磨する方法に過ぎないのである。

それにも関らず、少女労働者の位置はより多く教養を要する職業に従事する一見幸福なるが

如く見ゆる姉妹の位置よりもより自然に又人間的である。かの体面を維持するに急がはしき教師、医師、法律家、技師の如き姉妹の内部生活はその実日に日に空虚に涸死しつゝあるのである。

現在に於ける婦人の独立と解放の観念の狭義に解せらるゝこと、自己と社会上の位置を同じうせざる男子を恋するの恐怖、恋愛が自己の自由と独立とを奪はんとの※惧、母たるの愛と喜びが職業に全力を捧ぐることを障げんとの杞憂――全てこれ等の意識の集合は近代の解放せられたる婦人を強迫的に尼僧たらしめんとするのである。人生は彼女の前に其の偉なる清き悲哀と、深く恍惚たらしむる歓喜を抱きながら、少しも彼女の霊魂に触るゝことなくして回転するのである。

大多数の論者によつて解せらるゝが如き、所謂解放は、真の自由なる婦人、愛人、母等の深き情緒中に含まれたる無限の愛と歓喜とを許すにはその範囲があまりに狭隘である。

経済的に自主自由なる婦人の悲劇は経験の過多より生ずるのではなく、反つてその過少に起因してゐるのである。誠に、彼女の社会及び人生に対する智識は過去の姉妹に比して遙かにすぐれてゐる。何故なれば彼女は常に人生の核の欠乏を痛感してゐるからである。それのみが只だ人類の精神を豊富にする。それを把まずしては女子の大多数は単に職業的自働機械と化し終つてしまふのである。

斯くの如き状態の来るべきことは、かの倫理学の領域にあつて、当然男子が女子に卓越した

時代の多くの遺物が尚ほ残存してゐるといふことを明らかにした人々によつて夙に先見せられた。而してその遺物は今なほ有益であると考へられてゐる。更らに重要なる事は、解放せられたる婦人の大多数がその遺物を必用としてゐることである。現存せるあらゆる制度を破壊し社会を更らに進歩せる、更らに完全なるものに改めんとする運動は理論に於て最も急進的思想を抱いてゐる人々によつて行なはれてゐる。然しながら彼等はそれに反し、その日常の行為に於ては月並の俗人と変ることなく体面を装ひ、反対者の讃同を得んことを頻りに求めてゐる。仮令へば「財産は盗奪なり、」といふ思想を代表してゐる社会主義者或は無政府主義者の中にすら留針半ダース程の価を返済しないといふので怒り出す者がある。

同型の俗人が又婦人解放運動中にも発見せられるのである。黄色新聞雑誌記者或は浮薄なる文士等は屢々解放せられたる婦人を描いて善良なる市民とその愚図なる妻とを戦慄せしめた。女権拡張運動者は悉く道徳を絶対に無視するヂヨージサンのごとくに描き出されたのである。彼女はその眼中に神聖なる一物をも有せず、両性間の理想的関係に対する何等の尊敬を有せざる女として現はされた。要するに解放とは社会と宗教と道徳とを無視する放恣と罪悪の無分別であるかの如く見做されたのである。女権論の代表者はかくの如き誤解に対して甚だしく憤激した。彼等はユウモアを欠いてゐるので所謂世俗が解するが如き女とは全然正反対であることを極力弁明せんと務めた。勿論女子が男子の奴隷であつた間は善良にも純潔にもなり得なかつた。然し今では自由でもあり、独立もしてゐるのであるからどれ程自己が善良であるか、そう

して社会全般の制度を純化する上にどれ程の効果を与へることが出来るかといふことを証拠立てなければならない。実際、女権論者の運動は多くの旧き縄墨（じょうぼく）を破壊した。然し又同時に新しきものを造り出したのである。偉大なる真の解放運動は単に皮相の自由のみを認めた多数の婦人と面（おも）てを遇はせなかつた。彼等の偏狭なる清教徒的空想は男子を女性の惑乱者或は邪魔者と見做して彼等の情緒生活外に放逐した。如何にも男子は父としての資格以外に——父なくして生るゝ子供はあらざるが故に——如何なる賠償を払つても許さるゝ資格を欠いてゐた。幸にして如何程厳格なる清教徒と雖も母たることの内的欲求を殺す程強くはない。併し女子の自由は男子の自由と離して見ることは出来ない。而して解放せられたる多くの姉妹は自由に生れたる子供はその傍にある男女両者の愛と献身とを必要とするものであるといふ事実を見逃してゐる様に思はれる。近代男女の生活に大なる悲劇を齎らしたるは不幸にして、人間関係に対する此の狭隘なる観念なのである。

今から十五年前に素晴しきノルウエー人ラウラマルホルムのペンから〝Woman, a Character Study〟といふ著作が現はれた。彼女は現在の婦人解放に対する観念の空虚狭隘なること及び婦人の内部生活に及ぼす其悲劇的結果に対して注意を促がした最初の一人であつた。ラウラマルホルムは彼女の著述の中に天才エレオノラデユーゼ、大数学者兼著述家ソニヤコワレフスカイヤ、夭死せる詩人風の芸術家マリイバシユカアトセフの如き世界的名声を有する天賦ある数人の運命に就て語つてゐる。かくの如く異常なる心力を有する婦人の生涯の記述を通じて円満、

完全なる美しき生活に対する不満の欲求とその欠乏より生ずる不安と寂寞の著しき足跡が印せられてゐる。これ等の立派なる心理的描写を通じて吾人は女子の智力が発達すればする程彼女にその性ばかりでなく、人類、友人、伴侶及び強き個性を認める様な配偶者に出遇ふことが愈々むづかしくなつてゆくのを見ない訳にはゆかない。彼女の配偶者は彼女の性格の一点一画をも見逃してはならないのである。

男子は一般に自負心を有してゐる。而して女性に対し当然保護の力あるものゝ如く滑稽なる虚勢を示すものが多い。かくの如き男子はラウラマルホルムによつて描かれたる婦人の配偶者たるべく到底不可能である。又只管(ひたすら)彼女に智力と天才とを認むるばかりで女子の天性を覚醒することをあやまるが如き男子も等しく彼女に協(かな)はざる者である。

豊富なる智力と美しき心とは通常深く美しき性格の必然なる属性と考へられてゐる。近代婦人の場合に於ては、これ等の属性は彼女の存在の完全な肯定に対して障碍となつてゐるのである。「死が別離を余儀なくするまで」といふが如き言葉を有する聖書を基礎とした旧い結婚の形式が百年以上も女子を圧服する男子の主権、男子の気まぐれと命令に対する女子の絶対服従、彼の名と扶助に対する絶対の依頼等を代表する制度として定められてゐた。旧き結婚関係が女子をして只だ男子の下婢であり、子供の携帯者たらしむるものであるといふことはこれまでも度々断乎として証明せられた。然るに解放せられたる多くの婦人が独身世界の狭隘なるを厭ふて、様々の欠点あるにもかゝはらず結婚生活に走る傾向がある。これは全く女子の本性を拘束

する道徳上及び社会上の偏見の鉄鎖が煩はしく耐へがたきものになつてきたからである。

多数の進歩せる婦人がかくの如き矛盾に陥るの理由は解放の意義を実は理解してゐなかつたといふ事実によつて説明せられる。彼等は只管に外部よりの圧迫を脱して独立する事をのみ必要であると考へた。而して人生と成長とに更に更に有害なる内部圧制者である道徳及び社会上の習俗はそのまゝに打捨てて省みなかつたのである。習俗はそのとるべき道を進んだ。而してそれは今尚ほ吾人の祖母の頭と心とに栄えたるが如く依然として婦人解放論者の最も活躍せる代表者の頭と心とに美しく生きてゐる様に思はれる。

これ等の内部圧制者は輿論の形に於て、或は父母、兄弟、親戚の言葉となつて現はれてゐる。グランデイ夫人、コムストツク氏、雇主、文部省等はなんと云つてゐるか？　全てこれ等の御世話好きと、品行探偵と人間精神の獄吏――この人等はなんと云つてゐるか？　全てかくの如き者をものとせず、自己の立場を確立し、何等の拘束なき自由を主張し自己本然の声――それが生の最大宝庫なる男子に対する愛にせよ、或は最も光栄ある分娩の特権にせよ――に耳傾くることを学ぶまで婦人は真によく解放せられたりと称することは出来ないのである。解放せられたる婦人にして自己の胸底に絶へず波動しつゝ、聞かれんことを求め、満されんことを望んでゐる愛の声を真に自己の天職なりと信じ、進んでそれを承認せんとする婦人は果してどれ程あるであらう？

仏蘭西の作家ジエーンライブラハは小説〝New Beauty〟の中に解放せられたる理想的美人を

描き出さんと企ててゐる。その理想は医師を職とする一少女に体現せられてゐる。彼女は育児法に就て極めて巧妙に物語る。彼女は又親切であつて貧困なる多くの母に自由に薬を供給する。彼女はある知己の青年と未来の衛生状態に関して会話する。而して汚れたるボロを打捨て、石の壁と床を使用することによりて多くの黴菌が駆除せらるるといふことなどを話す。彼女は勿論甚だ質素に実用的な服装をしてゐる。衣物の色はたいてい黒である。青年は彼女との最初の会合に於て解放せられた友人の智識に敬服する。彼は次第に彼女を理解しやうとする。而してあるうらゝかな日に、彼はとう〳〵彼女を愛してゐるといふ意識を持つ。彼等は二人とも若い。女は親切で美しい。たとへ服装はキチンと整ひすぎてはゐるが一点の汚れもない白いカラアとカフスによつて柔かい感じを与へてゐる。読者は青年が彼女に恋を打明けることを期待するであらう。然し彼は馬鹿〳〵しきローマンスを実行するやうな人間ではない。詩と恋の情熱とはその婦人の純潔なる美の面前に紅葉する顔を被ふてしまふ。青年は自己の自然の声を黙殺して方正な態度をとる。彼女もまたいつもキチヨウメンで、理性的で、品行方正である。若し彼等が結合を作つたなら、青年は恐らく凍死するの危険を冒さなければならなかつたかも知れないと私は気づかつてゐる。私はこの新しき美人に何等の美を発見する事が出来ないものであることを告白しなければならない。彼女はその夢想する石の壁や床の如く冷淡なのである。私はかの物尺によつて計らるが如き品行方正よりも寧ろロマンチツク時代の恋歌、ドンフハンとヴイナス夫人の恋、或は父母の呪咀と悲哀と隣人の道徳的弁明等を後にして梯と縄とによる月夜の

出奔を讃美したい。恋愛にして無制限に与へ取ることを知らないなら、それは恋愛でもなんでもない。単にプラスとマイナスに力瘤を入れることを忘れない取引の如きものである。

現代に於ける婦人解放の最大欠点は人工的に堅苦しきこと、及び狭隘なる虚勢を張らんとしてゐる処に存してゐる。かくして女子の霊魂に空虚が生じ彼女は生命の泉を飲むことが出来ない様になつてしまふのである。私は且て真に新しき婦人と所謂普通の解放せられたる姉妹との間に有する関係よりも、常に子供の幸福と、自己の愛する人々の幸福を祈る旧き母と主婦とかの真に新しき婦人との間に有する関係が遙かに深いものであるといふことを述べたことがある。単純なる解放論者は私を異端視し火刑に処すべき者であると公言した。盲目なる情熱に走る彼等は私の新旧婦人の比較の如何なるものなるかを洞察することが出来なかつたのである。私は今日諸官省学校等に散在せる所謂解放せられたる多数の職業的婦人よりも我々の祖母の多数がその脈管中により多くの血を有し、更に多くの機智と諧謔と、自然らしさと、素朴と親切の多量を有してゐたといふことを証拠立てんとしたのみである。これは徒に過去に婦人をかへそうといふのでもなければ又女子を彼女の旧き雰囲気なる台所と育児室に押込め様とするのでもない。

救済は更らに光明ある未来へ全力を挙げて猛進する処に存する。我々は旧き伝説と習慣の拘束を脱して自由に成長する事を必要とする。婦人解放運動はその方向に向つて只だ一歩を進めたのみである。私はこれから更に力を集中してその第二歩を進まんことを希望する。選挙権或

は公民権は如何にも善い要求であるかも知れない。併しながら真の解放は選挙場或は法廷では初まらないのである。解放は先づ女子の心霊中に初まる。全ての圧服せられたる階級はそれ自からの努力によつてのみ真の自由を得てゐることは歴史が我々に語つてゐる。故に女子はその教訓を学び、自由は自己の自由に対する努力次第で達せられるものであるといふことを実現することが必要である。故に、あらゆる偏見と伝説と習俗の羈絆を切断し、自己心内の新生を創始することが遙かに重要である。人生のあらゆる方面にわたる権利の平等を要求することは正しく公平なことである。しかしながら最も根本的の権能は畢竟愛し、愛せれることである。実際、婦人解放が完全にして真正なるものとなるの暁にはかの愛せらるゝこと——即ち恋人であり母であること——が奴隷であり、附属品であるといふことと同意義であるといふ様な滑稽な観念は排除されてしまはなければなるまい。或は又男性と女性とは二個の相反せる世界を実現するものであるといふが如き性的二元説の無稽なる観念も等しく取去られなければならないであらう。

　瑣々たるものは分離し、広きものは結びつく。私等は相互に博大な心を持つ様にならなければいけない。我々の周囲に群がる有象無象のために、ものの根本を見逃してはならない。両性関係の真の意義は征服者、被征服者といふが如き関係を許さない。それは只だ一ツの偉大なることを知つてゐる——即ち自己をより豊富に、より深く、より善くするために自己を限りなく与ふるといふことである。それのみが只だ空虚を満たし、婦人解放の悲劇を無限の歓喜に変ず

るであらう。

青空文庫情報

底本：「定本　伊藤野枝全集　第四巻　翻訳」學藝書林
　　2000（平成12）年12月15日初版発行
※ルビを新仮名遣いとする扱いは、底本通りにしました。
入力：門田裕志
校正：Juki
2006年12月22日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

婦人解放の悲劇

エンマ・ゴルドマン

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　伊藤野枝訳
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/